

安春川のリノベーション設計 環境学習を目指した多自然川づくりの提案

氏 名 木村 桃愛

下水処理水を水源とする安春川に、多様な生き物が生息できる環境をつくり、子供達が環境学習を行うための親水空間を整備する。

調査から、安春川は流量と植生被覆量が少ないコンクリート護岸であるため、日射や外気温の影響を受けて水温が上昇しやすいことが問題であることが分かった。

そのため、水質改善と水温上昇を抑制するための植生の創出と、護岸整備、さらに生き物の生息を誘致する工夫として、産卵や育成のための静水池を設置する。また現状の安春川と地域の特性を考慮した上で、新たに環境学習の要素を加え、全体を5つのゾーンに分ける。上流から「文化・歴史ゾーン」、「せせらぎゾーン」、「自然ふれあいゾーン（図1）」、「自然みまもりゾーン（図2）」そして「生息地ゾーン」とし、特に「自然ふれあいゾーン」と「自然みまもりゾーン」を計画の重点区画とする。「自然ふれあいゾーン」は一部にトンボビトープ（図3）をつくり、トンボの産卵、育成、生息、繁殖場所として、地域住民や学校が提携して維持管理を行う。また、「自然みまもりゾーン」は親水スポットを点在させて人が河川に一部だけ干渉できるようにし、生き物の生息を優先させる。

このようにそれぞれの自然の優位性に合わせた計画を行うことで、人と自然双方にとって豊かな環境となり、また、安春川が多様な生き物の生息地となることで、下水処理水についての住民意識の向上に繋がると考えている。



図1 自然ふれあいゾーン

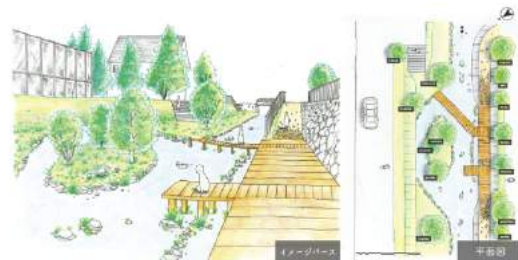


図3 トンボビトープ

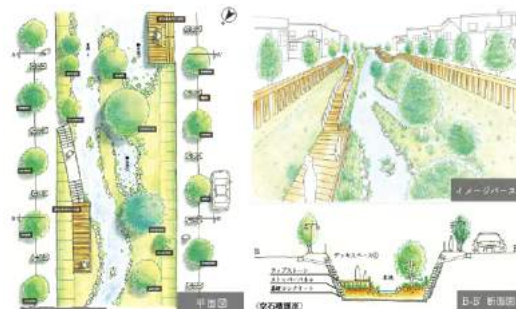


図2 自然みまもりゾーン